



寛政五癸丑

越後十日町

正始

此れ祝の母乃年加えざらん  
春に解張あま

緑蘿居

維石

春乃かほほほほほらあ乃春

米志ろくくと遊菜山

春梅乃凡徐くく白ひま

桃路  
山尾

肇歳

年乃流七十の春お宇をほわ礼  
えりや帰ぬをふ乃まさあくと  
久しきの永き初りや岩戸山  
舞入も変りて星の季始く申  
宵切もふやいそりぞめ乃春  
松竹や春廣き居蘇乃酔心  
初日似る縁のそや初日乃出

竹師  
仙魯  
緑枝  
麻栖  
桺賦  
三嘗  
六明

蕙母乃年笑とつふ  
半湾の波路り糸——初可す夏  
ひふ乃まやと眠まきほ志屋りな  
七翁乃まあをせれハおめ可き

桃路  
山尾  
大儿

春魚

るるれあうまのけきや四方乃山  
留主た乃せし人酒やるむんを  
た去——ろのまお都の松の内  
空まあせ候招我をちれぬ天穴可き

居樂  
沽風  
魚淵  
野紅

枕乃春の酒も後りすある日る  
まの乃白のす次枝母初春の南  
昔の初春や今朝乃るの春  
陽あもせと書長き 栞 野  
手折はと眼先きへあせり柳

榴石  
竹茂  
山虹  
山南  
桃路

全

紙麻のこらまふゆりや朝のす  
津戸川よ笑澄々り美乃流

宋魚  
李山

三十一 晴や影よく 木乃下  
 吸骨乃 蝶の掃除や 春乃雨  
 空乃乃 志のくさき 初春が  
 山吹や 小窓のめくく 車  
 枸杞垣や かるい くの親子住  
 一とく 陽誠心也 弓始々  
 凡そて 婦こ 路ゆる 余をひ  
 滞るる 手おふ きたや 暮乃ぬ

松 蘭 草 荷 寸 奚 霞 延  
 雨 入 士 風 居 志 雪 年



亦清よき時や

中条 松の凡

市山

永居す凡各の心也喜乃々れ

支方

勝おや扇くのうけ行燈

柙之

巻いさふは唯ふも之げんぢ

北舟

目救すういアそ梅のおらうそ

汀之

跡ありや通りがさる石佛

柙宇

全

泥川や田にの沈む日の言まう

下条

亀遊

流るに日と暮る阿まう柳うさ

里見

おるもや小田の畦のゑをを唱く

里藤

葉切の田の白ひやまう乃乃

文石

改りきりさかれて月の流る

亀文

全

上野

笑りれてるもあや紙月

怡明

多畦や田にの少るも思きり

蘭山

東言や風は吹くも松うさり

可圓

つつや呵られなうむの陰  
ちり塚は物寐て居るまらるる  
雪の雪や森林田乃水六何礼  
らんや乃むよ赤出の雪うりか  
何るも雪と毒もそなたの中  
葩夕 山川 二川 齋志 嗽石

のるまをる管ん乃水や幾曲り  
自梅やまの根乃まら八月に清  
斗水 朝雨

全

五

粟も色香や何ん梅乃毒  
菽入りやまも脱すに笑ひの  
み待ておれハ紐子唱山べ  
栗多りり葉かうそき林麻みち  
まありあきまると写やかみ餅  
松茂 露曉 柵只 露玉 芦川

全

陽あやう福アそ登んまらるる  
人里と離れくまらるる  
左来 蘭里

六

左茂もや孤村の煙り目またくさ  
吹りけてもあふよ動く柳うな  
まふや解きつ遠へ出るるのるり  
まふや中ちる系さるる破ち障  
りてや信は山低く海青い  
宮原 湖海  
大井平 如蓬  
芦笛 芦秀  
自春

全

那柳乃くよ別くる二月式  
まふのればらふも留らうむ誓り  
水澤 可有  
敬之

拙人のえらものよせん山さ丸良  
船りけ野山ハまき乃梢う市  
水際乃寒き中らる柳うな  
蒼茂出さるるれはま日の暮にりり  
るまき中ちらるる村つむの  
馬場 富牧  
芦航 芦角  
車因

全

梅うき乃ひ赤いつくやあ乃中  
門淺し一は少入町の帯一せき  
伊達 百舟  
文江

苗代乃水澄きりて明かきけ  
いふ〜やまよりの毛男と亦  
淡ききに裾引てけ女子可南  
美芝や美に行る尺乃道川治  
え目よ子先乃室まき扇の家  
半来 山旭 梢嵐 魯石 芳曉

文通

七種やころあつさればさつ  
雪中菴  
芋月菴  
伊勢

勝日良女と遠月よ見ぬ  
尾張 千鳥菴  
民ハ〜ひまさる〜集るる雀の子  
信飯山 白亀  
蛇とる夜乃静けや美乃雨  
柏寄 直入

子歳暮  
嘉例の子供い〜とて

風起て煤を掃日乃〜天氣不南  
山之

歌仙首尾

守良かや世二三日と多〜乃持テ  
廣雪



時を  
樂  
無  
事

木舟乃ち中一の歳む年一昔  
弓形に富乃中とお離さる  
水乃落免又船下とさる  
さくくと飯喰かれ朝は月  
着物そろそろぬ秋乃帷子  
肌ささほくしの中一の姉妹  
内儀作りし縁又麻子のさる  
恵望き鶴江の流のかさす

宋真  
延年  
六の  
沾風  
山尾  
宴志  
麻栖  
松雨

一の  
不  
事  
秋  
雨  
舟  
中  
一  
の  
歳  
む  
年  
一  
昔  
木  
舟  
乃  
ち  
中  
一  
の  
歳  
む  
年  
一  
昔  
弓  
形  
に  
富  
乃  
中  
と  
お  
離  
さ  
る  
水  
乃  
落  
免  
又  
船  
下  
と  
さ  
る  
さ  
く  
と  
く  
と  
飯  
喰  
か  
れ  
朝  
は  
月  
着  
物  
そ  
ろ  
ろ  
ぬ  
秋  
乃  
帷  
子  
肌  
さ  
さ  
ほ  
く  
し  
の  
中  
一  
の  
姉  
妹  
内  
儀  
作  
り  
し  
縁  
又  
麻  
子  
の  
さ  
る  
恵  
望  
き  
鶴  
江  
の  
流  
の  
か  
さ  
す  
松  
雨  
麻  
栖  
宴  
志  
山  
尾  
沾  
風  
六  
の  
延  
年  
宋  
真

松路  
松路  
松路  
松路

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the cursive script. The paper is aged and shows signs of wear, including tears and discoloration.